

一般社団法人日本かまぼこ協会
 全国蒲鉾水産加工業協同組合連合会
 代表理事会長 下村 全宏

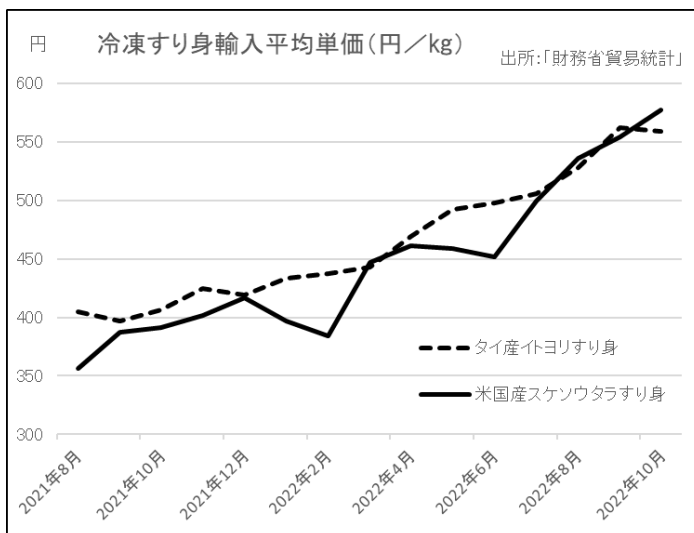
生産コスト高騰で、魚肉ねり製品メーカーは大ピンチ

全国の魚肉ねり製品（かまぼこ、ちくわ等）の製造業者は、今までにない原材料、包装資材、物流費、電気代・ガス代等の高騰に苦しんでいます。この1年で価格改定ができたメーカーであっても、改定幅を上回るコスト上昇が続いていて、事業を取り巻く環境は一段と厳しさを増しています。来年春にコスト増に追隨した価格転嫁が避けられない状況です。

我々メーカーの苦境を何卒ご理解ご賢察賜り、各位におかれましては、広く全国（小売業界や消費者等）にお伝えくださいますようお願い申し上げます。

1. スリミ価格の異常な高騰

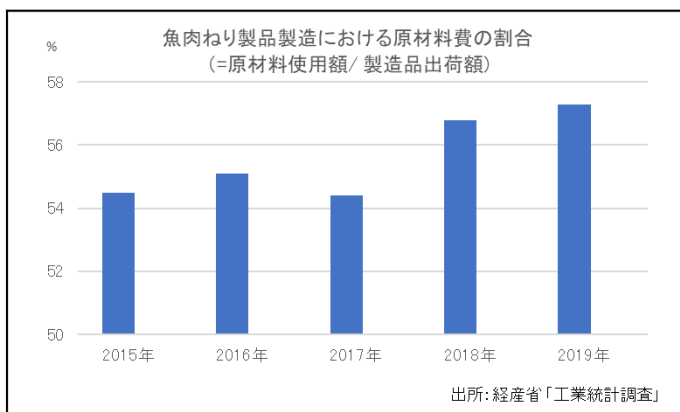
スリミをはじめとする原材料は高騰し続け、供給不安も増しています。米国産スケソウダラ・



スリミの輸入平均単価は、今年10月に577円/kg（昨年同期比で48%増）に達し、これまで経験したことのない最高値です(出所:財務省 貿易統計)。

タイ産イトヨリダイのスリミの今年10月の輸入平均単価は559円/kg（昨年同期比で38%増）で、米国産スリミと同様に高値が続いています。

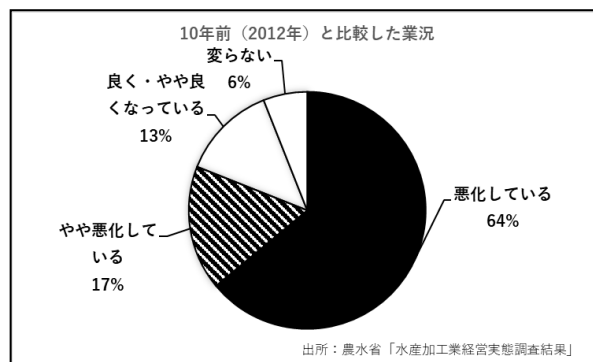
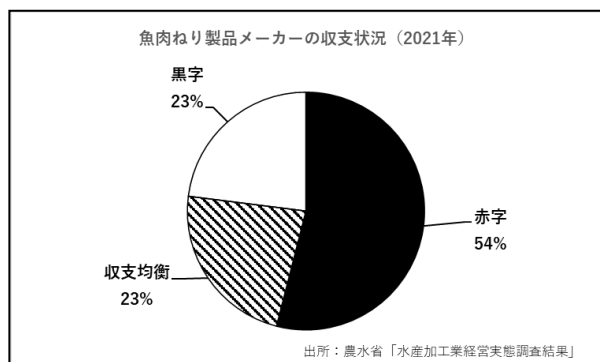
2. 原材料費の占める割合が60%と高い業種であり、収益は低い



魚肉ねり製品製造業における原材料費の比率は、2019年時点で57%です(出所:経産省「工業統計調査」)。最近の原材料価格の高騰と急激な円安が重なり、現時点でのメーカーの原材料費の負担は大幅に増加しています。このため、以前にも増して利益確保が難しくなっています。

3. このままだと廃業のおそれが高まり、商品提供の継続が困難に

農水省調査によると、2021年は魚肉ねり製品メーカー952事業所のうち赤字が54%、黒字は23%です。10年前に比べて業況が悪化しているとの回答が80%に達しています(出所:農水省「令和4年度水産加工業経営実態調査」)。事業を取り巻く環境が改善しないと、廃業を考えるメーカーが増え、ひいては消費者の嗜好に合った魚肉ねり製品の提供が難しくなります。



コスト上昇のペースが急速で、これまでの価格改定の水準では生産コストの上昇分を吸収することは極めて困難です。来年春に、コスト高に見合った更なる価格改定をせざるをえない状況です。我々メーカーが事業を継続できるような環境作りには是非ともご理解を賜りますようお願い申し上げます

【本件に関するお問合せ先】

一般社団法人日本かまぼこ協会 専務理事 奥野 勝
Tel (03)3851-1371 e-mail: info@nikkama.jp